

花

(前奏あり)



春のうららの隅田川
のぼりくだりの

船人が

權(かい)のしづくも

花と散る ながめを

何にたとふべき

(間奏あり)

錦(にしき)おりなす

長堤(ちようてい)に

くるればのぼる

おぼる月

げに一刻も千金の

ながめを 何に

たとふべき

おぼる月夜

1 菜の花畠(ばたけ)に

入り日薄れ

見わたす山の端(は)

霞(かすみ)ふかし

春風そよふく

空を見れば

夕月かかりて

におい淡(あわ)し

2 里わのほかげも

森の色も

田中(たなか)のこみちを

たどる人も

蛙(かわず)のなくねも

かねの音も

さながら霞(かすみ)める

おぼる月夜

バラが咲いた

バラが咲いた バラが咲いた

真赤なバラが

淋しかった ぼくの庭に

バラが咲いた

たったひとつ 咲いたバラ

小さなバラで

淋しかった ぼくの庭が

明るくなった

バラよ バラよ

小さなバラ

そのまま

そこに咲いてておくれ

バラが咲いた

バラが咲いた

真赤なバラで

淋しかった ぼくの庭が

明るくなった

